

## 地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
  - (1) 一人ひとりの尊重
  - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
  - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
  - (4) 安心と安全を支える支援
  - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
  - (1) 居心地のよい環境づくり
  - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

### V. サービスの成果

#### ※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

#### ※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム エルダー介良

ユニット名 2階

自己評価実施年月日 平成 19年 7月 20日

記録者氏名 田窪 可奈

記録年月日 平成 19年 7月 25日

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	今まで以上に地域と家族に対して具体的に実行・交流してゆきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	介護目標をたててどうだったかという反省会を持ち、年度の目標をたて勉強会を続けていく。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	年に二回の家族会でその都度、理念にふれ説明する。施設の前に掲示板を設置し、当施設の理念を掲示し、地域への理念の浸透を図る。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	地域に出向く機会を作り、積極的にふれあう場を作ってゆく
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	町内会の活動計画に参加し、交流の場を広げてゆく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームの行事の度に案内をだし、参加を促している。現在までのところ十分とはいえないが、地域の主催する高齢者ケアの研修に参加し、互いに連携をとっている。	○	今現在は町内のゴミステーションを事業所が場所提供し、増設しているが、今後は掲示板の設置や町内会とのよりいっそうの連携を深めさらに地域に貢献してゆきたいと考えている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表作成を通じて全員で評価と意義の狙いについて話し合い、取り組んでいる。前回の外部評価の結果より、家族の理念に対する理解が薄いことがわかり、口頭や手紙で家族に知らせた。	○	改善計画シートを作成し、質の確保と向上に努めている。自己評価の意義と狙いは全員が理解しているが今後もその取り組みを続けてゆく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	双方向的な会議になるように配慮しているが、サービスの向上にいかせるような意見はでない。	○	地域の町内会長に運営推進委員会に参加していただくよう働きかけ、より地域と密着してゆく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進委員会議にも高知市の担当者に参加して頂いているが、その他にも地域単調者保健師と連絡し研修会に参加したり、高知市介護保険課と運営上の相談をし、連携を図っている。	○	各種書類の提出の機会をとらえ、高知市の担当職員との連携を深めてゆく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、保健所と連携を持ち、勉強を続けている。資料は職場に置いてあるが、職員に理解してもらうまでには至っていない。現在、利用者の中に後見制度や権利擁護事業を必要としている人はいない。	○	高知県社会福祉協議会の発行しているパンフレットを職員全員で読み、勉強会を行う。対応が必要と思われる利用者が出た場合は、適時アドバイスをしてゆき、必要機関につながるよう支援してゆく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、勉強会にも参加しており、事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払っている。	○	高齢者から不当に財産上の利益を得ているケースが他のユニットであり、高齢者虐待防止関連法に基づき、監督官庁と連携をとり、法的対処をしている。今後も監督官庁と連携をとってゆく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や書類の手続きの経過の中で十分に説明をしながら家族や本人の意向を聞き、対応している。	○	現状では特別の問題はないが、今後も理念に基づいて、利用者・家族に納得して頂ける説明を行う。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の連絡先を明示し、苦情箱を設置している。	○	さらに利用者・本人の意見、不満、苦情が職員並びに外部者へあらわせる機会を作るよう、職員全員で話し合う。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に普段の暮らしぶりを詳しく伝えている。また体調に変化があった場合はすぐに電話で報告をしている。金銭管理については、金銭出納帳をつけ、面会時に確認して頂き、毎月のお便りで領収書を送り、残高を報告している。異動については面会時に報告している。	○	異動があった場合は月に一回のホームの手紙で知らせる。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に何でも言ってもらえるよう、普段から話ができる雰囲気作りを心がけ、面会時には時間をとって話をするように心掛けている。	○	玄関には意見箱を置いてあり、公的機関の相談窓口、苦情窓口を明示してある。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員の意見を聞く機会を設け運営者とも密に連絡をとっている。	○	運営者はしばしば施設を訪問し、直接意見を聞く機会を持っているが、更にもその機会を増やすように心掛ける。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態やペースにあわせたローテーションを組んでいる。利用者や家族の状況の変改に対して、柔軟な対応をしている。	○	平成19年度より各ユニット内人員を増強した。今後は人員増強が利用者のサービスに有効に働くよう、必要に応じて勤務体制を調整する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に留め、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	○	今後も異動、離職を最小限に抑えるための対応を行う。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年計画をたて、職員の習熟度にあわせて研修を受けている。研修を受けるとユニットで研修内容について、再度勉強会を開き、職員が理解できるようにしている。研修報告レポートを提出している。母体の高知鏡川病院より講師を招き、テーマを決めて勉強会を開いている。	○	研修を受けるたびに勉強会を開き、認知症や介護技術について理解を深め、職員の意識向上を図っている。
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高知県グループホーム連絡協議会に加入し、研修や集会を通して互いの情報交換を行っている。	○	今後は他施設との相互訪問の機会を増やし、他事業所の良い点を積極的に取り入れてゆきたい・
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の親睦会だけではなく、日々の問題点について、随時、運営者に直接連絡がとれる体制をとっている。	○	各職員のプライバシーに配慮しながらあらゆる機会をとらえて職員に対する理解をさらに深めてゆく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得を奨励するだけではなく、事務長、看護部長など複数の指導的立場の者が各自の職能評価を多面的に行い、適時アドバイスを行っている。	○	管理者だけではなく職員全体がレベルアップできるように努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用の相談があった時には見学や、面談時に本人に会って、本人の思いや不安を聞く機会を作っている。	○ ケースによっては家庭訪問をしたり医療機関からの情報収集をしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用について相談がある時は見学に来て頂き、困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作っている。	○ 他のサービスが適切と思われる場合は、すみやかに該当機関に紹介している。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に詳しく情報収集し、適切なサービスを見極め、必要に応じて他のサービス機関につなげている。	○印 (取組んでい きたい項目) 地域包括支援センターとは連携ができていますが、地域のケアマネージャーとも連携してゆきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学時や面接時には利用者、職員を交え、本人にホームでの生活を体験していただいている。	○ 見学時に入居希望の方だけを他の入居者と一緒に過ごしていただき、不安な表情がないか、うまくコミュニケーションが図れるか状態を確認し、家族と相談している。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側、される側という意識を持たず、人生の先輩であるというスタンスにたち、いろいろ教えて頂いたり、不安や喜びをわかちあう関係を築くような場面設定をしている。	○ 自分が介護される側だったらどうかということを考えながら介護をしてゆく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月に一回のホームからの手紙で日常生活状態を詳しくお知らせし、行事での外出時などは同行をお願いして楽しい時間をわかちあうようにしている。また、家族さんの介護における悩みなども相談にのっている。	○	行事の外出は、家族さんにも同行をお願いし、楽しい体験を共有し、また普段の状態を知っていただく機会を持っている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までの家族関係や現在の状況、家族の本人に対する思いなどを見極めながら、外出や外泊などで一緒に過ごすことをすすめたり、行事に家族を誘ったりしてよりよい関係を築くように勤めている。利用者より家族に手紙を書く機会をかまえたりしている。	○	面会時には居間で一緒に体操に参加して頂いたり、おやつを食べたり、ホームでの生活を利用者さんと一緒に体験していただく機会を持っていただき、家族間でよい関係を持つて頂くよう支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行ったり、檀家の住職が訪問してくださったり、本人がこれまで大切にしてきたなじみの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族から遠方に住んでいるが付き合いのある人の名前や住所を聞いており、手紙を書いたり、電話をかけたりするよう支援している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について職員同士で情報共有し、利用者の仲の良し悪しに配慮し、職員がさりげなく間にはいり、孤立しないように気をつけている。毎日の生活の中で参加していただけることを見つけ、職員もともに行うことによって、支え合いの機会をもてるように注意している。	○	食事やお茶の時間に職員が間にはいり、さりげなくフォローし、またその日の体長や気分、感情などの変化をつかみ、利用者同士が上手くいくよう支援している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されて契約終了になった方にはお見舞いに行ってその後の状況を把握し、再入居が可能で希望される場合は相談にのっている。	○	現在十分にできていると思われるので、さらに努力してゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のかかわりのなかのさりげない会話で本人の思いを把握するようにしている。意思疎通が困難な方に表情や普段の行動より思いを汲み取り、家族からも情報を得ている。	○ 職員同士で情報を共有し、さらにきめ細かなケアに努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には以前利用したサービス機関からの情報を収集している。家族面会時に聞き取りを行っている。生活史シートをお願いして書いてもらっている。	○印 (取組んでいきたい項目) 更なる情報収集につとめる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者、一人ひとりの生活のリズムを把握し、小さな変化を見逃さないようにしている。	○ 職員間でしばしば話し合いを持ち、現在の心身状態や、「こういうすすめかたをしたら、できた。」などと細かい情報を交換し、職員全体が情報を共有し、利用者の状態を総合的に把握している。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	普段の生活から本人の思いを聞き、家族の希望や医師の意見を参考にして、関係者で話し合い、介護計画を作成している。	○ コミュニケーションが難しい方については普段の生活のふるまいの中から、その人らしさを探し、介護計画に反映させるようにしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変わった時は臨機応変にカンファレンスを行っている。家族や必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	○ 介護計画の期間にとらわれず、臨機応変にその都度カンファレンスを持ち、利用者の不利益にならないように努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、いつでも全職員が確認できるようにしている。また勤務開始前の確認は義務付けている。日々の様子を記録し、職員間で情報を共有している。また介護計画にそって実践されたかを記入し、情報の共有を徹底化している。	○	個別の記録だけでなく、普段より頻回に職員間で話し合いが持たれている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所は介護保険に基づく多機能性は有していないが、一時的な入院時における居室の確保など利用者が不安なく継続して当グループホームで生活できるよう、支援している。	○	医療連携加算の指定は受けてないが、実質的な医療連携体制の充実をすすめてゆく。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	中央高校のボランティアに来てもらい、交流している。年に二回の消防訓練の開催。警察と連携し、何かあれば対応できる体制ができています。	○	今後はさらに地域資源との協働をすすめていきたいと思っている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームの中だけで完結するサービスだけでなく、官民のサービスを利用する機会を持っている。	○	研修時、他の事業所のケアマネジャーと意見交換し、情報を集めているが、今のところ他のサービスは利用していない。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、必要がないため権利擁護や長期的なケアマネジメントで地域包括支援センターと協働はしていない。	○	将来的に必要となる可能性は否めないもので、地域包括支援センターと密に関わりを持ってゆきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族付き添いで受診する時は普段の状態などを家族に説明するだけでなく書面で医師に情報提供し、適切な医療を受けられるように支援している。また職員付き添いで受診する場合は、普段の状態を知らせ、医師と相談をしている。	○	十分にできているが更に努力したい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体である高知鏡川病院の医師と細やかな連携をとり、相談をしたり、また菜の花診療所が主治医の利用者が受診する際は、管理者が日常生活の情報を提供をし、よりきめ細かい治療を受けられるよう支援している。	○	十分にできているが更に努力したい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体である高知鏡川病院の看護職員に常日頃から健康管理については相談している。	○	具体的なアドバイスを受けた時は実行にうつしている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合は、必ず病院の相談室と連携をとり、情報交換につとめている。また必要に応じて医師と面会をして情報を交換している。	○	十分にできているが更に努力したい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の話は、常日頃にかかりつけの医師の意見を聞きながら家族と相談し、全員で方針を共有している。	○	重度化や終末期における利用者の要望は一人ひとり違う為、よりきめ細かい対応ができるよう、利用者・家族とより一層意思の疎通を図る。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当事業所のグループには医療機関もあるので、グループホームだけで対応するのではなく、医師も含めた人的資源を利用し、支援している。	○	重度化や終末期における利用者の要望は一人ひとり違う為、よりきめ細かい対応ができるよう、利用者・家族とより一層意思の疎通を図る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別のところへ移り住む際は、家族及び本人に関わるケア関係者、役所関係者、病院関係者などと十分な話し合いを持ち、情報交換につとめている。入院する場合は、必ず介護要約を送り、また入院先に赴き医師・看護師・相談室のいずれかと情報を交換している。	○	さらにより取り組みができるよう努力してゆく。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の漏洩防止については全職員に徹底しており、就職時に書類にサインをもらっている。また、写真についても外部に公表してよいかどうかを家族より確認をとり、全職員が周知している。また普段のミーティングの際に個人の尊厳を守れているか職員間で話し合いがもたれている。	○	ミーティングの際に、職員の意識向上を図っており、折にふれ、個人の尊厳について話をしている。勉強会にも引き続き参加してゆきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	各自のわかる力にあわせて説明を行い、自分で決める機会を持つように支援している。難聴の方には身振り手振りで説明し、複数の選択肢の中から自分で選ぶ場面を作っている。	○	職員は利用者とは過ごす時間を通して、利用者の希望、関心、嗜好を見極めるようにしている。またそれを元に日常生活の中で利用者を選ぶ場面作りをしている。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間などおおまかな時間帯は決まっているが、特に決まったスケジュールはなく、その日の体調や利用者の性格、その日の気分を尊重し、希望に添って過ごせるよう支援している。	○	朝風呂を希望される方には午前中に入浴して頂いている。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好みの身だしなみができるよう、家族に依頼し援助している。美容院は行きつけの店に行けるよう家族の支援を依頼している。	○	季節にあわせた好みの服装ができるように支援している。また外出の際は一緒に服を選んだり、職員がアドバイスをしておしゃれを楽しめるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じものを一緒に食べている。盛り付け・片付けなども利用者と一緒にいき、職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事を楽しめるように援助している。また食事作りの時は利用者の希望を聞いて献立にとりいれている。	○	月に一回は食事作りをしている。利用者のレベルの問題があり、あまり手のこんだ物は調理できないが、なるべく全員が調理に参加できる献立で利用者の希望の献立を作るようにしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	煙草を吸う利用者はいない。嗜好品については体重や食べすぎ・賞味期限の問題もあり、職員が預かり、本人の様子を見ながら楽しめるよう支援している。	○	ふりかけやのりなど、食事の時の嗜好品を楽しめるよう、家族に依頼し、持ってきていただく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全室にトイレがあり、自分の好きな時にいつでもトイレに行ける。また共同のトイレもひとつある。	○	リハビリパンツ、パット使用者の個別の排泄のパターンを把握しており、トイレ誘導を行い、トイレで排泄できるように支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴をいつしているかの把握を職員がしており、入浴が必要と思われる時にさりげなく職員がすすめて入浴して頂いている。拒否ある方には、しつこく勧めず、他の職員が言葉をかけたりチームプレイで入浴を支援している。	○	朝風呂を希望される方には午前中に入浴して頂いている。入浴が好きという方には、体調にあわせてほぼ毎日入浴していただいている。入浴を嫌がる方にも職員が一方的に決めず、その人の体調を確認しながら、複数の職員で言葉をかけ、気持ちよく入浴できるよう支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動時間を多くし、生活のリズムを作るように支援している。またその日の疲れ具合や予定（外出・受診など）によって、十分な休憩をとれるように配慮している。	○	職員が利用者の生活パターンを把握しており、その日の体調や疲れ具合によって、生活リズムが崩れる時は送りをおこない、職員間で情報を共有し、十分な休憩をとれるよう配慮している。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけて支援してゆくよう、試行錯誤しながら取り組んでいる。	○	毎日の生活の中で、できそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力により、少額を自分で持っている。電話をかけたい方は家族の協力を得て、自分で電話代を持っている。電話をかけたいが自分で小銭を管理出来ない方は職員が預っている。	○	買物の機会がある時は自分でお金を財布からだす機会を持っていただいている。また居間にある電話が公衆電話なので、電話をかける時は10円玉を職員が利用者に渡し、見守り・言葉かけて公衆電話を利用していただいている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を日常生活よりさりげなく聞きだし、個別あるいは他の利用者とともに出かけられる機会を作っている。	○	希望がある場合は、個別に外食にでかけたり、仲の良い利用者同士で喫茶店に行ったりしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望を日常生活よりさりげなく聞きだし、個別あるいは他の利用者とともに出かけられる機会を作っている。	○	外食してお肉が食べたいという利用者には個別で外食し、仲良しと一緒にケーキでお茶をしたいという利用者には、喫茶店でお茶を楽しむ機会を提供している。季節を感じて楽しむ外出の機会を持っている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙を送ったり、年賀状を送るよう支援している。また家族から手紙を送ってもらうよう依頼し、届いたことで喜びを共有している。電話はいつでも取り次ぎ、利用者が話しをしやすいように電話の置いてある場所に椅子を置き、ゆっくり話ができるようにしてある。	○	絵手紙教室に参加した後は、必ず家族さんにだすよう支援をしている。また電話をかけたいという希望のある方には電話代と電話番号を家族から預り、電話をかけませんかと言葉をかけた後、10円を職員が両替してきて、本人に持ってもらいいつでも電話（公衆）ができるよう支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に設定しておらず、いつでも面会できるようにしている。希望があれば、利用者の部屋で宿泊もできるようにしている。面会の方が来られた場合は、お茶を持って訪室し、普段の状態を話して会話の糸口を作っている。	○	利用者さんの部屋でゆっくり過ごしていただいているが、面会の方も一緒に体操に参加したり、フロアで他の入居者さんと一緒におやつを食べたりして頂くよう言葉をかけている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の対象者はいないが、管理者は介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解できている。	○	管理者より折にふれ身体拘束の話職員にしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在一人で外出したがる利用者はおらず、日中は鍵をかけることはない。外出をしたがる利用者が入居していた時は、出て行く気配を見逃さないように職員が見守りし、さりげなく声を言葉をかけたり、一緒に外出したり安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしていた。	○	全ての職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、外に出る機会を多く持つようにしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜とも、職員が利用者を見守りやすい位置にいる。またかく居室の入り口にのれんをかけていただき、扉を開け放して中の様子が丸見えになったり、扉を閉め切って中の様子がわからなくならないように配慮している。	○	夜間の休憩は居室が見渡せる居間で休んでおり、24時間利用者の安全に配慮している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	前回の外部評価で包丁のしまい方については指摘を受けたので、指導どおりに、ひとまとめにして鍵のかかる棚にしまい、使い終わった後に必ず数を確認している。また洗剤などの日常品は夜間は脱衣場にしまい、鍵をかけている。	○	義歯洗浄剤につけた義歯のコップも夜間は脱衣場に入れ鍵をしめている。ハサミや裁縫道具は職員が管理し必要な都度、貸し出しし、返却されたことを確認している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起こった時の状態を想定し、イメージトレーニングを行い、職員間で話し合いをして、事故防止に取り組んでいる。	○	更に訓練をつんでゆきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に一度は救急救命法を受講し、訓練をつんでいる。また、非常時にどういった対応をするという話し合いをしばしば職員間で持ち、事故発生時・急変時にスムーズに行動できるよう備えている。	○	現在の訓練を継続し、十分に備える。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に一回の避難訓練を行っている。また消防署の協力を得て、春と秋に消防訓練を行っている。	○	高知市の災害担当の係の方より具体的な情報（地震時など）を提供してもらおう。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	現在の認知状態、日常生活動作の状態について詳しく把握しており、主治医からも情報を得、起こりえるリスクについて家族に説明して、対応策を話しあっている。	○	起こり得るリスクを家族に説明し、どういう生活を望むのか家族から話を聞いている。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は普段の状況を把握しており、常に顔色や様子に注意し、普段と違う兆候が見られた時はバイタルチェックを行い、結果によっては家族に連絡し、早期受診につなげている。	○	平素より職員間で利用者の平熱が高い目（低い目）であるとか、足の浮腫があるなどという話がひんばんになされており、平素の状態を把握している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握できるよう、服薬しているくすりの処方箋や内容の説明のファイルを各個人記録に作っている。	○	処方箋が変わった時は必ず、申し送りがおこなわれ、フロア日誌、個人記録に記録をしている。また薬の副作用について薬剤情報を個人記録にファイルし、申し送りをして起こりうる副作用を念頭におき、状態を観察している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養士と相談し、普段の食材は繊維質の多いものになっている。また職員は便秘の原因や、便秘が及ぼす影響を理解しており、水分摂取や、体を動かす働きかけに積極的に取り組んでいる。	○	便秘予防における水分摂取の重要性を職員はよく理解しており、きめ細かに言葉かけし、水分補給につとめている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝食後の歯磨きは言葉かけを行い、力に応じて見守ったり、介助を行っている。昼食後の歯磨きは職員介助による義歯の洗浄を行い、本人は残歯もしくは歯茎のマッサージを行っている。夕食後は義歯を預かり、義歯洗浄剤に漬け、翌朝返却するようにしている。	○	義歯の利用者は普通の歯磨き粉と義歯用は磨き粉を使い分け、また義歯用の歯ブラシを使い、義歯の管理を確実にしている。職員は口腔ケアの重要性を理解している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の食事摂取量、水分量を全職員がおおまかに把握しており、記録をしている。	○	水分量が少ない傾向にある利用者については、ケアプランをたて、全職員が情報を共有し、一日の総摂取水分目標を達成できるように支援している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	起こり得る可能性のある感染症に関する細かいマニュアルを作成し、予防・対策につとめている。インフルエンザの接種は利用者および、家族に同意を頂き、職員と共に接種を受けている。ノロウイルス対策としてペーパータオルを使用。	○	感染症の発生する時期には、職員でマニュアルを読み返し、学習している。また感染症のついでに勉強会がある時は職員が参加するようにしている。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は使用する度に食洗機にかけ熱湯消毒している。食器も利用者が洗った後、必ず食洗機にかけている。余った食材は賞味期限をチェックし、過ぎたものはすぐに処分している。おかずが余った時は取りおきをせず、その場で処分している。	○	冷蔵庫の掃除は毎週水曜日に行っている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	常に季節感のある明るい花を植えている。玄関前にはベンチを置き、玄関には花をいけ、季節感を感じていただくようにしている。	○	玄関の壁を有効に活用し、作品などを展示してゆく。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	七夕、クリスマス、お正月など季節の行事の際には季節感のある飾りつけをしている。柚子湯など季節の行事を楽しんでいただいている。	○	季節感のある飾りつけを作る時に利用者に参加していただきその行事に関する会話を楽しみながら季節感を味わっていただいている。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファがあり、皆そこでくつろいでいる。以前は廊下に椅子を置いたり、ベランダに椅子を置いて思い思いに過ごせるような場所の工夫をしたが、消防署に椅子を置く場所が不適切であると指導されたり、また現在は、歩行器利用の方がおられ、共用空間に椅子を置くスペースがなくなった。	○	自室の入り口にのれんをかけ、入り口を明けておくとプライバシーは保たれ、一人になることができ、なおかつ他の人の気配を感じることができるようになってきた。また仲の良い方と二人で居室でお茶を飲んでおしゃべりをしたりもしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で使い慣れた家具を持ってきて頂い ている。家族さんが利用者の好みのも のを持ってきて飾り付けたり、本人が自宅で大事にしていた 物を持ってきて居室においてある。	○	お仏壇を持ってきている方もいる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居間は朝、食後、掃除時など一定の時間帯に換気 をしている。また利用者の居室には温度計を設置 し、職員が利用者の様子を見ながら、冷暖房をい れて調節している。	○	朝、利用者が窓を開けて換気をしていない時は、 職員が窓を開け、換気している。また冷暖房がは いった時は職員が居室の温度、利用者の様子を見 ながらこまめに温度調節をしている。トイレは換 気扇と消臭剤を使い、においがでないようにして いる。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	全館バリアフリー。床はクッションフロア。廊 下・風呂場・共同のトイレには手すりがついてお り、必要な方は使えるようになっている。	○	歩行器使用の方がいるため、物を置かないよう にして広々としたスペースを確保し、歩行器が通り やすいように片付けている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	各居室の前にはメモリーボックスを作り、家族や 利用者の写真をいれたり、自分が作った作品を 飾ったりして、自分の部屋だとわかるようにして いる。混乱が起きた場合は、「便所」「流してく ださい」など書いた紙を貼ったり、衣替えの時 は盗られたという訴えがでやすいため、家族に手 紙を残してもらい、混乱を防ぐようにしている。	○	コップの形をした花瓶など利用者さんが混乱しや すいものは家族と話をして、花がない時はしま いこむようにしたり、混乱を防ぐようにしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ベランダにはプランターを置き、花を植え、利用 者に楽しんでもらっている。	○	花を一緒に植えたり、水やりを利用者におねがい している。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

家族との連携がうまくできており、外出時など一緒に行っていただいている。行事のビデオを家族が撮ってくれたりして協力してくれている。